

◆ 中野都税事務所長賞 ◆

「税金という「恵み」

中野区立明和中学校 3年 折山 姫麻理

私の家の年収は一般家庭より少ない。しかし、そんな中でも私は特に問題なく日常生活を送っている。それは税金という「恵み」によって支えられているおかげだ。

私は都営住宅に住んでいる。母に都営住宅とは何か尋ねると、東京都が管理している住宅のことだと教えてくれた。また、都営住宅と民間借家では、都営住宅の方が家賃価格が低いということも母から聞いた。気になったので家賃について詳しく調べてみると、民間借家の家賃が平均月約8万9600円であるのに対し、都営住宅の家賃平均は、月約2万3000円だった。これは民間借家の3分の1の家賃である。なぜ都営住宅は民間借家よりも低い家賃なのだろうか。それには税金が関わっていることがわかった。令和4年度の東京都で使用された税金の総額は約15兆3億円、そのうち約1467億円の税金が都営住宅の管理などに使用されている。つまり税金があるからこそ、比較的低い家賃で家に住むということが実現できているのだ。これはとてもありがたいことだと思ったと同時に、税金の重要性に気付かされた。

今まで私にとっての税金は「取られるもの」という認識が当たり前で、「負担」でしかなかった。2019年に消費税が上がったとニュースで聞いた時は、「消費税が高くなって困るし、嫌だな。」と思っていた。

しかし、税金について調べてから考えが変わった。税金がないと学校に通えない。税金がないと病院に行けない。税金がないと安全な水を飲めない。税金がないと私たちは日常生活すらまともに送れない。私が住んでいる家、通っている中学校、整備された上下水道や道路、警察や消防など、他にも様々なことが税金によって支えられている。

税金が高くなって困るどころか、税金は私たちの生活に大きな「恵み」をもたらしている。こんなに税金に支えられているにも関わらず、何も知らないまま税金に対して文句を言っていた自分が恥ずかしいと思った。

中学生の私は消費税しか払っていないが、今税金に支えられている分、大人になったらきちんと納税をして今度は自分が支える側になりたい。税金という「恵み」を次の世代にももたらすために、私にできることを精一杯やろうと思う。